

制作概要

作品と環境

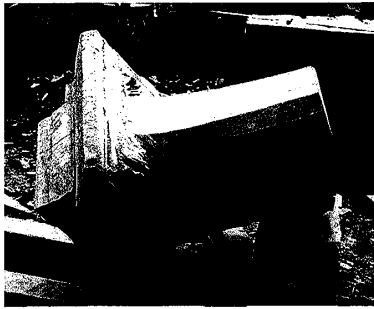
一つのモチーフを様々な技法、異なった素材、演出で表現研究している。作品の設置される環境を計画に組み込むとき、作品の意義の可能性は更に広がる、作品が環境を再認識させていることが解る。

例えば、刻々と移り変わる光の中で、そのエネルギーを受け、生命を持っているかのように変化する作品は、自然の恵みを受けると共に、厳しい風雪に耐えなければならぬ自然環境と、地域文化、時代等の社会環境を要素に入れると、その多様さは豊かである。

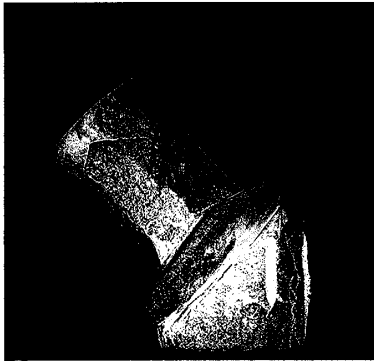
ここでは、カービング（彫刻）、モデリング（彫塑）、鋳造法（キャストイグ）の技法の比較、材質の比較、環境との調和などを中心に追求している。

右ページ石の作品は2点一対で展示され、夕日を受けて影のダンスを演じる。影は実体を超えて存在するように思えるし、物を「認識する順序」に関心を持ち始めている。

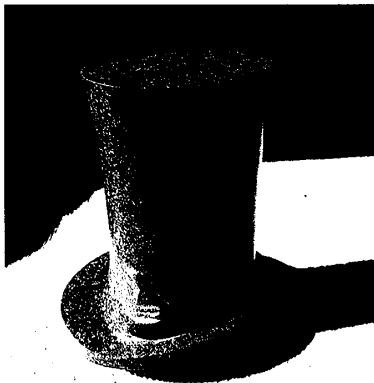
北野 正治
2002 光の中街を歩く
黒御影石2点による空間構成
第31回西宮市芸術祭



カービング (彫刻)
工業ダイヤモンドブレードにて切削、
多面体に造形し目的の形に近ずける。
アフリカ産御影石 (ベルファースト)



研磨 200 番
水磨きに入る前で形態はこの状態が
一番認識しやすい。



以下3作品は石質・大きさ・形態・
表面処理が異なっており、各々の特
性を示している。
能勢産黒御影石



インド産御影石 (インデアンプラック)



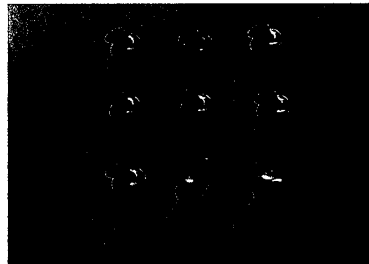
アフリカ産御影石 (ベルファースト)



モデリング (彫塑) 油粘土により造形、
石膏で雄型を作り、シリコンで雌型を
作る、写真はシリコンに蠟 (ワックス)
を張り込んでいるところ。
ガラス繊維で強化したプラスチックを
張り込めばFRPとなる。



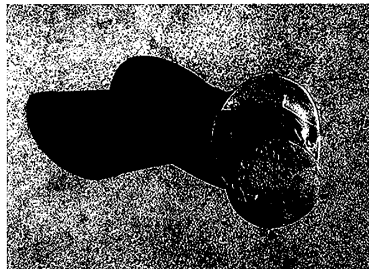
鑄造法 (キャストイング) の例
蠟 (ワックス) を石膏で巻き、800度
以上の窯で、上記蠟 (ワックス) を蒸
発させ、その隙間に溶解した金属を流
しこむ技法で、その歴史は古い。
この写真はメーカーのサンプル。
材質は錫。



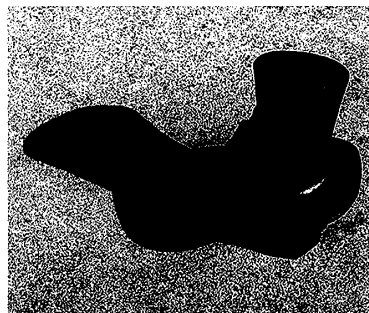
鑄造法は大量生産に適しており、機械
化が進んでいる、目的に応じて材質を
選択する。
材質は錫と鉛の合金。



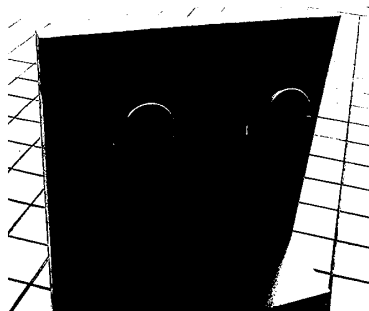
上記説明の蠟型



材質は鉛



古典的な材質、ブロンズ。



合成樹脂の張り込みと、流し込みの
2つの技法を用いた作品例。



北野 正治
2002 光の中街を歩く
黒御影石 2点による空間構成
第31回西宮市芸術祭